

当日配布資料

村櫛小学校地域公開日 (第73期算数教育研究発表会)

令和4年11月1日(火)

研究主題 **明日を拓く算数学習** (4年次)

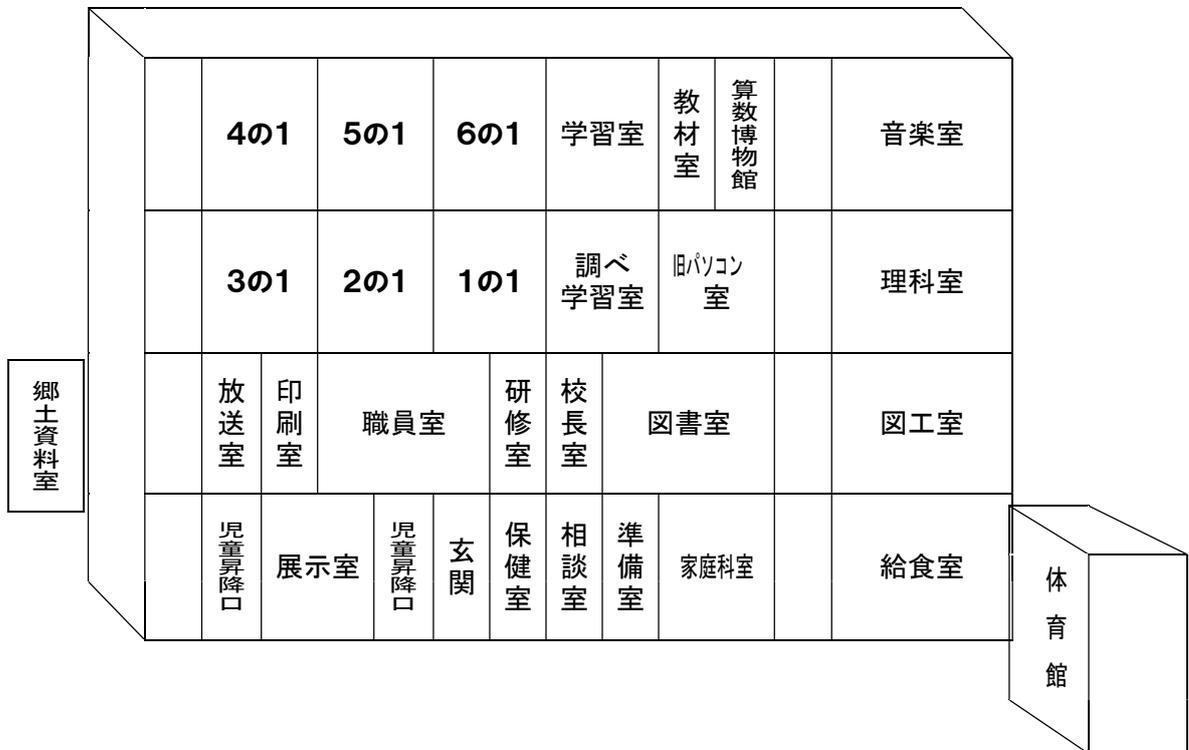
～自分の成長を振り返り、明日へつなげる活動～

◎研究授業 2校時 9:25～10:10 3校時 10:25～11:10 4校時 11:20～12:05

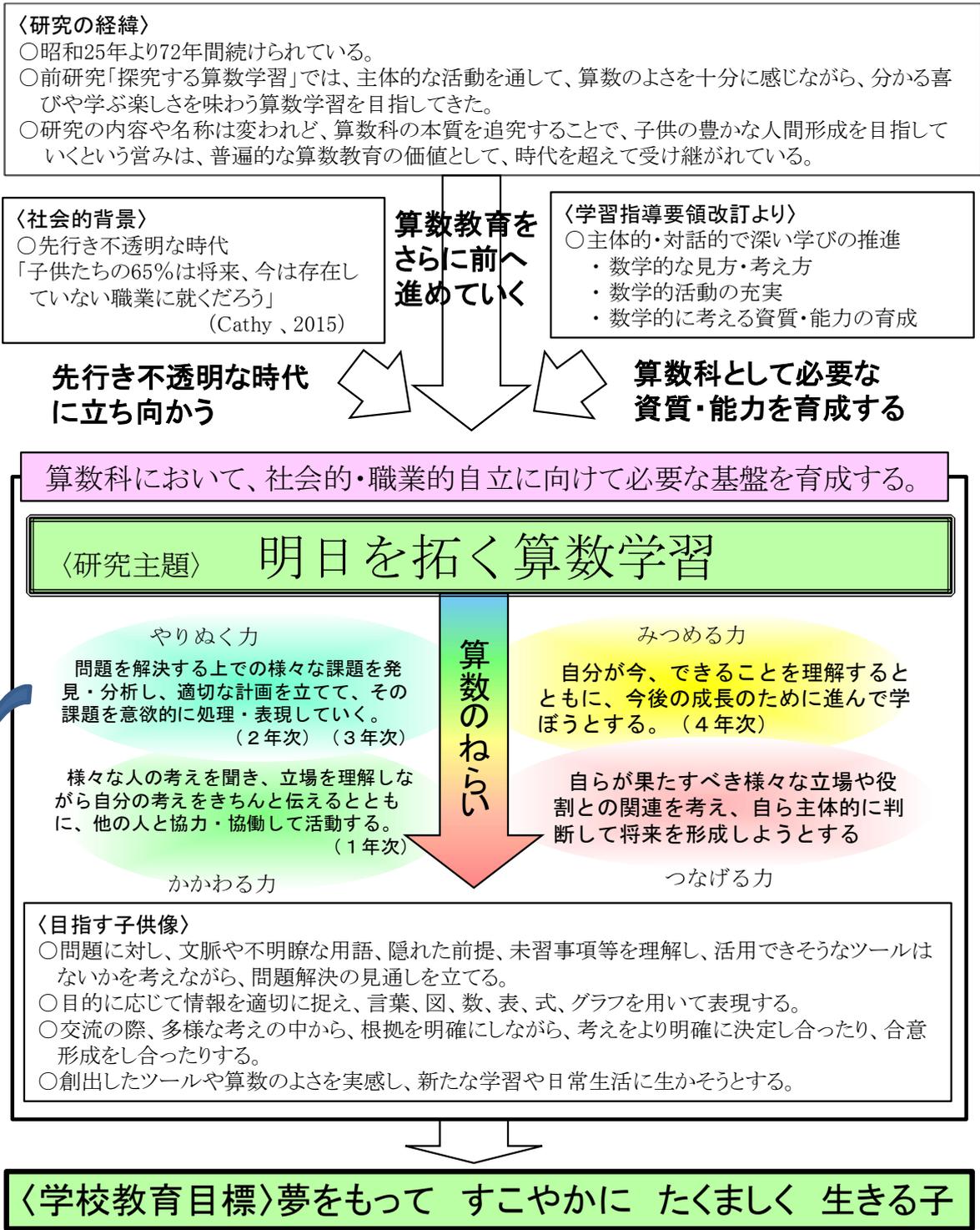
年・組	校時	単元名	授業者	場所
1-1	3	たしざん	依田 祐希子	1-1教室
2-1	4	はこの形	佐藤 理美	2-1教室
3-1	2	重さ	古屋 晃子	3-1教室
4-1	3	変わり方	和田 明日美	4-1教室
5-1	4	単位量あたりの大きさ	栗野 高史	5-1教室
6-1	2	比	村松 道子	6-1教室

【御指導いただく先生】 1～3年：浜松市教育委員会指導課 村田昌士 様
4～6年：静岡大学教育学部教授 松元新一郎 様

◎ 教室・会場案内



浜松市立村櫛小学校研究全体構想図



【全体構想図】

本校の研究は、昭和25年より72年間続いています。研究の内容や名称は変わってきていますが、算数科の本質を追求することで、子供の豊かな人間形成を目指していくという営みは、普遍的な算数教育の価値として、受け継がれてきています。私たちは、これからも算数教育をさらに前へ進めていきたいと考えています。

また、これからの社会は、先行き不透明な時代に突入するといわれています。その時代に立ち向かう力の育成が必要です。さらに、学習指導要領の改訂に伴い、主体的・対話的で深い学びの授業を推進し、算数科として必要な資質・能力を育成していきたいと考えています。

これらの観点から、私たちがこれから子供たちにつけたい力を「算数科において、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤を育成すること」とし、令和元年度から研究主題を「明日(あす)を拓く算数学習」として、研究を進めてきました。

本研究では、やりぬく力・かかわる力・みつめる力・つなげる力の4つの力をつけていきます。今年度は4年次にあたり、これら4つの力をつけることを通して算数のねらいに迫り、構想図にある目指す子供像に近付けるようにしていきたいと考えます。そして、学校教育目標である「夢をもって すこやかに たくましく 生きる子」の具現化につながるのではないかと考えています。

〈研究主題〉

明日を拓く算数学習

～自分の成長を振り返り、明日へつなげる活動～

みつめる力

自分が今、できることを理解するとともに、今後の成長のために進んで学ぼうとする。

【手立て】

振り返りを意識した授業展開

○振り返りに

生かすための工夫

- ・ツールの創出
- ・問いの活用

○意欲的に学びに

向かうための工夫

- ※意思決定・合意形成
- ・課題の発見・分析
- ・ICTの活用

課題発見・分析 共創 自己分析

【手立て】

振り返りの場の工夫

○振り返りをさせ、

表現させるための工夫

- ・視点の明確化
自己分析・自己評価(メタ認知)
算数のよさの確認
キャリア教育のキーワード

- ・振り返りカードの活用
- ・振り返りの時間の確保

○まとめの問題の工夫

- ・選択問題
- ・問題創作
- ・生活に結び付く問題

算数のねらい

【4

4年次で定める学習内容は、振り返りを意識した授業展開と併せて、振り返りを意識した授業展開と併せて、「自分の成長を振り返り、明日へつなげる活動」としました。

本年度の手立てとして上記の4つを取り組んでいます。「振り返りに生かすための工夫」とは、ツール創出のために話し合いを充実させたり、発問や板書を工夫したりすることです。「意欲的に学びに向かう工夫」とは、課題を発見、分析し、適切な計画を立てることです。「振り返りをさせ、表現させるための工夫」とは、算数のよさに気付かせ、視点の明確化をし、振り返りの際、自己分析・自己評価ができるようにしていくことです。「まとめの問題の工夫」とは、練習問題を難易度別などいくつか用意し、子供たちに自分の意志で選んで取り組ませたり、自分たちの生活に結び付く問題を用意したりすることです。

これらの手立てを通して、自分が今、できることを理解するとともに、今後の成長のために進んで学ぼうとする姿を目指しています。

【授業のみどころ】

<p>1年:単元名 たしざん 【A 数と計算】 依田 祐希子</p> <p>1 本時の目標 (2/10時間) ブロックを操作したり図で表したりする活動を通して、10のまとまりをつくるとよいことを理解することができる。</p> <p>2 振り返りを意識した授業展開の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活科で秋見つけをしたときの場面を提示することで、問題を身近に感じさせて必要感をもたせたい。 ○ ツールボードを活用することで、既習の問題との違いを意識させ、課題を発見させたい。 ○ ブロックや図などを使うことで、数を合成・分解したり10といくつで考えたりして解決させたい。 	<p>2年:単元名 はこの形 【B 図形】 佐藤 理美</p> <p>1 本時の目標 (2/5時間) 具体物を作る活動を通して、辺や頂点の数がわかり、四角形の構成要素を理解することができる。</p> <p>2 振り返りを意識した授業展開の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートを用いることで、粘土玉の数は頂点の数、竹ひごの数は辺の数ということに結びつけさせたい。 ○ グループ活動を取り入れることで、箱の形のようなものを完成できるようにさせたい。 ○ ツールボードを活用することで、算数の言葉を用いて、箱の特徴を説明できるようにさせたい。
<p>3年:単元名 重さ 【C 測定】 古屋 晃子</p> <p>1 本時の目標 (1/9時間) 天秤で重さを量る活動を通して、重さの意味、重さの比べ方を理解することができる。</p> <p>2 振り返りを意識した授業展開の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 重さの順番を決めることで、どちらがどれだけ重いかを調べる必要感をもたせたい。 ○ 直接比較でなく、積み木○個分で表す任意単位による比較で、簡単に順位をつけることができることに気付かせたい ○ 長さや水のかさの学習を思い出させることで、「もとにする大きさのいくつ分で表すことができる」ことに気付かせたい。 	<p>4年:単元名 変わり方 【C 変化と関係】 和田 明日美</p> <p>1 本時の目標 (3/5時間) 伴って変わる2つの数量の関係を表に表し、変化の特徴を調べることを通して、その関係を式に表すことができる。</p> <p>2 振り返りを意識した授業展開の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身の回りにある事象から規則性を見つける活動を行い、興味・関心をもたせたい。 ○ 前時の学習の振り返りを行い、2つの数量の関係を考えるときには、横方向と縦方向に見る方法があることを確認してから学習に取り組ませたい。 ○ 2つの数量の関係はかけ算で表されることもあることに気付かせたい。
<p>5年:単元名 単位量あたりの大きさ 【C 変化と関係】 粟野 高史</p> <p>1 本時の目標 (3/12時間) 2つの場所の混み具合を比べる活動を通して、1kmあたりの人口で比べるよさに気づき、人口密度を求めることができる。</p> <p>2 振り返りを意識した授業展開の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人口密度を求めるときも、第1時と同様に、どちらかの単位にそろえて求めるとよいことに気付かせたい。 ○ 交流の時間を確保し、式から、自分が何を求めたのかをはっきりさせた上で、全体交流につなげていきたい。 	<p>6年:単元名 比 【C 変化と関係】 村松 道子</p> <p>1 本時の目標 (1/12時間) 正しい日本の国旗を探す活動を通して、比の意味と表し方を理解することができる。</p> <p>2 振り返りを意識した授業展開の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 幾つかの国旗から正しいものを選ばせる活動を行うことで、何気なく目にしている国旗のどこを見ればよいのだろうかという困り感をもたせたい。 ○ 隣同士の2人組で活動することで交流しながら考えさせたり、一人1枚ずつ用紙を渡すことで自分の考えをしっかりとめた上で、全体交流につなげていきたい。